



2007年6月13日

VOL. 7

とっとり・グローバルウォッチ

とっとり貿易支援センター情報誌

海外チャレンジ企業

地道な努力で台湾展開成功 ～有限会社ライフエンス～

米子市の(有)ライフエンスは、グルコサミンやキチン・キトサンを主成分とする各種健康食品を取り扱っている。高齢化と健康志向の高まりにより、健康食品市場は国内外で最も注目されている分野と言っても過言ではないだろう。ここ数年、台湾展開に力を注いでいる同社の小林秀樹社長にお話を伺った。

「フード台北」県内企業初出展

1990年に設立された(有)ライフエンスが台湾展開を図るきっかけとなったのは、台北市で毎年開催される国際食品見本市「フード台北」への出展である。同社が出展した「フード台北2004」は、ジェトロと(財)日本交流協会が初めて日本パビリオンを設置し、日本国内18企業が出展したもので、鳥取県内からの出展は(有)ライフエンス1社のみであった。



ライフエンスで1番人気の「エルグルコQ10」は、体内の器の円滑な動きをサポートする効果があり、膝・腰の関節の栄養素となる。また、細胞を若返らせ、体力向上やお肌の老化防止に効く。

台湾流ビジネス

「台湾市場はおもしろい。」そう思った小林社長は、台湾の歴史などを自分なりに勉強し、日本とは人柄も文化も異なる台湾ではビジネスのやり方も変える必要があることを認識した。「台湾人は気心を知った上で、初めてビジネスをして

くれる。人脈を作るのに2年かかりました。」小林社長は当時を振り返り、感慨深く、そう語った。

台湾で健康食品の輸入は難しい

土台ができれば展開はスムーズか、と思うが、そう簡単ではなかったようだ。台湾が健康食品を輸入する場合、輸入者側が衛生局で申請をしなければならないのだが、時間的にも経費的にも負担になり、手を挙げてくれる代理店を探るところから始めなければならない。しかも、錠剤やカプセル等の健康食品は許可がおりにくい。紆余曲折を経て、今年の3月からやっと継続的に「ライフエンスQ10パウダー」が台湾向けに出るようになった。

台湾から東南アジアへ・・・

この他、同社ではエルグルコQ10や健康茶も台湾に出しており、今後は台湾だけでなく、台湾人脈を活用し、ベトナムやマレーシアにも目を向けたいと小林社長は言う。これから台湾にチャレンジする県内企業に向けて、「相手に値段を合わせることも大事。品質を落とさず、そして根気強く！」ライフエンスの更なる展開から、今後も目が離せない。



左：小林社長

【企業情報】

有限会社ライフエンス
米子市米原4丁目6番77号
電話：0859-34-1588
HP：http://www.lifence-inc.co.jp/

写真提供：(有)ライフエンス

【鳥取県産業振興機構海外支援部 早川】

目次

海外チャレンジ企業 有限会社ライフエンス	P 1
現地発！ 台湾月刊レポート	P 2
石橋水産 石橋修氏の講演より	P 3
鳥取県産品の香港市場 への売込みについて	P 3
北東アジアフェリー 航路	P 4
編集後記	P 4

世界の祝日～7月～

韓国 17日 憲法記念日
タイ 30日 三宝節振替休日

出所：ジェトロ通商弘報
「世界の祝祭日2007年版」から

現地発！台湾月刊レポート

台湾食品業界のトレンド

台湾の食品業界は、生活向上の影響で食品の品質を大事にし始めた。現在のトレンドは「有機」。そして日本に続くように無添加食品についての知識を吸収し始めている。ダイエット食品については、日本と同時進行だ。

キーワードは「健康」と「ダイエット」

台湾は近い。しかし台湾への市場参入は、難しい。こう考えている方が意外と多いのではないだろうか。解決方法はひとつ。商売の基本に徹し、台湾人が買いたいものを売ることだ。

今回は、「食品」に関してのトレンド報告をしたい。まず敵を知ること。インターネットは、今がわかる。「食品」キーワードを検索してみた。

- 健康食品(1)
- 有機食品(3)
- 保健食品(4)
- ダイエット食品(6)
- 食品材料(7)
- ペット食品(14)
- 日本食品(20)



注：カッコ内は入力キーワード順位。

- ・参考として日本人の結果。
- ダイエット食品(1) 健康食品(3)
- 食品添加物(6) 冷凍食品(8)
- 自然食品(16) ペット食品(50)

共通なのは、健康とダイエット。台湾人は、食べることで健康効果を求め、日本人は、安全な加工食品を探している。入力結果は、そう言っているようだ。ここで台湾の有機市場について書いた聯合報(5/29)の記事を紹介する。

有機食品市場が伸びている。量販店でも有機食品専用区ができはじめた。

台湾では、まだ有機食品認証に対して統一がされていない。そこで愛買という量販店では、MOA、TOPA、TOAF、FOAという台湾農委会が認めた四認証団体のものを置いている。有機食品野菜は、一般の値段より20%-50%高い。しかし業績は、30%-40%伸びている。カルフルでは、健康、養生概念の流行で有機食品の輸入が国内品、国外品で半々だが、今年第1四半期の業績が、3倍から4倍に伸びている。有機食品専用業者によると、試し買いをする人が多くなってきた。ただし継続的な買いは、まだ少ない。とのこと。

日本に追隨する台湾

台湾では、有機食品への好奇心、裾野が広がり、揺籃期に入ってきたと言える。有機食品宅配も人気が出始めている。「永豊」という製紙会社が、不況の影響から有機食品と宅配に眼をつけ開始したのだ。共働き、お金に余裕がある若い世代や健康志向家族に人気がある。また某業者の一番人気は、日本製有機納豆とのこと。台湾人は、納豆を食べないという神話が崩れはじめた。台湾は、日本に追隨する傾向がある。日本食品というキーワードが上位に入っていることも嬉しい。「有機食品」が動き出した。

貼り紙(写真右)には、「化学調味料、防腐剤等を食べない方は、いらっしやい！」と書いてある。その証拠として、その日スープのダシに取った骨を飾っている(写真下)。



求められる安心・安全な食品

続くのが「無添加、無汚染食品」というキーワードだろう。たとえば「江医師の魚舖子」では、医学的知見をあわせた魚を販売し、売切れになるほど人気を集めている。この魚は、(業者曰く)未汚染海域で獲り、その場で急速冷凍し台湾CNLAで重金属汚染・無添加の調査を受け販売している、とのことだ。

ちなみにダイエット(中文では「減肥」)を調査してみると、流行は「茶」「さつまいも」「寒天」「ワイン」「肉食」「リンゴ」「豆乳」「蜂蜜」との結果。やはりおいしく痩せたいようだ。女性は、進歩的。日本と同時進行だ。

写真：(株)スナーク 富田氏提供

参考

CNLA: Chinese Nat. Labo. Accred.
http://www.cnla.org.tw/

鳥取県海外コーディネーター紹介
株式会社スナーク
代表取締役 富田 恭敏
任期はH19年5月からH20年3月まで

一年間ほど
よろしくお付き
合いお願いします。

【(株)スナーク 富田】

最新中国事情を聞く

石橋水産 石橋修氏の講演より

5月15日(火)境港流通会館で、上海石橋水産有限公司董事長、石橋水産グループ代表取締役 石橋修氏の講演会が行われた。

演題は「中国における水産物消費動向と今後の課題」。中国人の性格や雇用するにあたっての注意点、中国人との貿易のやり方など、自ら貿易に取り組みられたことなどをざっくばらんに述べられた。講演会には水産関係者を始め、行政関係者など多数参加し、今後中国との貿易を考える者にとっては大変参考になるものであった。

「日本人と同じ」が売れる

話を聞くと、日本での中国市場に関する噂と、実際に現地で商売をするのではかなりの違いがあるようだ。石橋社長によれば、「商品は中国人に合わせて加

工したものは売れない。日本人が食べるのと同じように加工すると売れる」「日本人と同じ食べ方をするから付加価値が付くのであって、中国人が食べやすいように加工したのでは、興味を示さない」のだという。実際、石橋水産の商品も寿司、刺身が一番の売れ筋だと言われた。価格面でも、上海は景気がいいので高いものでも日本の物なら売れるという話を日本ではよく耳にするが、実際そのようなことはなく、贈答品など一部に限られるそうだ。

好きだからこそ・・・

講演を終えた後の懇親会でも、話題は魚の話が中心で、根本には魚が好きで多くの人に食べてもらいたいという強い気持ちを持っておられるからこそ、困難を乗り越えて現在の成功があるのだと感じた。

【境港貿易振興会 立花】

ジェットロからお知らせ

JAPANフェアin広州 出品者募集のご案内

成長著しい華南経済圏の広州でJAPANフェアが開催されます。本イベントは、日本・中国両政府が推進しており、中国市場への日本製品（繊維、雑貨、食品、電気機械等）・サービスの参入、および現地日系進出企業による部品などの現地販路拡大の絶好の機会です。

会期：2007年9月15日～18日
場所：広州国際会議展覧中心
申込締切：2007年7月6日
詳細はこちら：

<http://www.jetro.go.jp/events/tradefair/20070517539-event>
お問い合わせ：
ジェットロ鳥取（担当：志牟田）
TEL：0857-52-4335
FAX：0857-52-4336

連載

鳥取県産品の香港市場への売込みについて

今回は、香港市場にターゲットを絞り、考えてみたい。

日本食でSARS予防？

2003年に新型肺炎“SARS”（サーズ）が発生した時、日本人に感染者が出なかったことから「日本食でSARSが予防できる」という“うわさ”が香港で飛び交い、食事の時間帯には日本食レストランの前には長蛇の列が出来、又この時期、納豆などの日本食材を販売している店も売り上げが急増したと言う。近年、世界中でSARSや鳥インフルエンザなどの感染症の爆発的流行が懸念されている中、健康への願いは従来にも増して強まっている。

余談になるが、鳥取大学と地元企業、用瀬電機株式が共同開発したウイルス飛沫感染予防用の抗ウイルスマスク“バリエール”も、この機を捉え、鳥取県産食材、日本酒、地酒と共に“鳥取まるごと”海外販売のドライブをかける好機が到来したとも言える。

情勢を踏まえた上でビジネスを

香港ビジネスにあたり、以下の政治・経済情勢を理解しておく事が肝要である。

【政治情勢】

1997年7月1日、英国は香港に係る主権を中国に返還し、中国は香港に対する

主権行使を回復した。

中国・英国間で以下の合意がなされている。

返還前の香港の社会・経済制度及び生活様式の維持を、返還後50年間保障する。（一国二制度）

香港を外交、国防を除く高度の自治権を有する「特別行政区」とし、行政権、立法権、独立した司法権を付与する。

【経済情勢】

香港経済の特徴：自由で開放的な経済

コモンロー（英米法系）の透明な法制度や簡素で低率の税制（法人税17.5%、個人所得税最高16%、キャピタルゲイン・利子非課税）。

高度なサービス化社会

製造業拠点は1990年代前半までに中国本土移転が進み、貿易、金融、不動産、観光、流通などのサービス業がGDPの約9割近く（88.5%）を占め、製造業は4%のみ。

国際金融センター

通貨・金融市場の安定を背景に、香港は国際金融センターとして機能している。2005年5月、政府はカレンシーボードにおける上・下限値を新設し、1米ドル=7.75～7.85香港ドルに移行した。

<次号に続く>



日本海を横断する新航路の動き

北東アジアフェリー航路

発展が進む中国東北部に日系企業が進出し、日本海を横断して中国からロシアを経て日本へと貨物を輸送するため新しい航路を開設する動きが、いよいよ本格化してきた。

トロイツァ(ロシア)から韓国の東草を経て、新潟へとつなぐこの航路は、日本海側の港が対岸諸地域と直接つながるものである。境港は、かねてより環日本海横断航路の実現に取り組んできており、

新航路の実現に注目している。

新航路の境港への寄港の実現には、貨物の創出が課題であり、境港貿易振興会では、会員企業の皆様をはじめ、さまざまな方々に貨物および航路利用の可能性をお聞きしているところである。

今後も、その取り組みを継続していくが、ここで、新航路を巡る最新情報を以下のとおりご紹介する。

航路の名称	北東アジアフェリー航路
寄港地	トロイツァ(旧ザルピノ) 東草 新潟 トロイツァ
運営会社	名称：北東アジアフェリー航路株式会社(仮称) 資本金：300万ドル 本社：新潟市(予定) 出資：日本・ロシア・中国・韓国 比率：40%・30%・20%・10%(関係国で調整中)
日本側投資会社	運航会社に出資するために設立 名称：北東アジアフェリー航路株式会社 本社：新潟市 設立登記：平成19年3月20日
就航する貨客船	新東春号 旅客定員：600人 貨物132TEU
運航船社	東春フェリー(韓国船社)
運航開始時期	2007年秋以降(予定)

【境港貿易振興会 坂本】

編集後記

先日台湾を訪問した際、いま話題沸騰中の台湾新幹線(台湾高速鉄道)に乗りました。

この新幹線は通称「高鉄」と呼ばれ、皆さんご存知の通り日本初の輸出新幹線で、川崎重工業・日本車輛製造・日立製作所が製造し、日本のJR東海とJR西日本の共同開発によって作られた新幹線700系をデザイン基準としています。

最高速度は300km/h、在来線で約4時間かかる台北-高雄間が90分で結ばれています。

筆者は台北-台中間を往復したのですが、日本の新幹線と変わらぬ快適さでした。窓の外には鳥取の風景とどことなく似た緑豊かな自然が広がり、車

内では売り子はもちろん、ゴミを回収する清掃員も歩いています。

台湾は九州ほどの大きさの島ですが、地方によって人も食べ物も習慣も違い、昔のよき日本のようだという人もいます。台湾を訪れることがあったら、是非台湾新幹線に乗って、心む景色を楽しんでみてはいかがでしょうか。(那)



第3回中国吉林・東北アジア投資貿易博覧会について

昨年に続き、中国政府指導のもと、鳥取県と友好交流を進めている中国吉林省の長春市で開催される投資貿易博覧会に出展し、同国での販路拡大に取組む企業を募集します。



時期：2007年9月2日～6日

場所：吉林長春市

国際会議展覧センター

お問い合わせ：

海外支援部(担当：中江、早川)

TEL：0857-52-6734

FAX：0857-52-6782

写真：昨年鳥取県企業出展の様子

とっとり貿易支援センター 貿易に関する相談はこちらの窓口へ

【東部窓口】

(財)鳥取県産業振興機構海外支援部

0857-52-6738

ジェトロ鳥取貿易情報センター

0857-52-4335

【西部窓口】

(株)さかいみなと貿易センター

0859-47-3900

境港貿易振興会

0859-47-3905

【その他関係機関】

境港管理組合港湾管理委員会事務局

0859-42-3705

ジェトロ貿易相談デスク

0859-45-2203

鳥取県商工労働部産業開発課

0857-26-7245・7566

『とっとり・グローバルウォッチ』では、皆様から、内容のご提案や掲載されている情報へのご意見・ご感想をお待ちしております。メールでお気軽にお寄せください。また、受信希望の方は下記までご連絡ください。

お問い合わせ：(財)鳥取県産業振興機構海外支援部(担当：早川)

E-mail：kaigai@toriton.or.jp : 0857-52-6735

http://toriton.or.jp/toriton/cgi/wnew3/disp.cgi?sub=1&cate=9&ind=1